

- 西表島でのかぼちゃ生産は、運賃、資材費高を補うため、収量・品質向上による収益性向上が不可欠であるが、農家間の技術格差が大きい。
- 普及課では関係機関と密に連携し、技術講習会、かぼちゃ通信簿作成による個々のレベルアップを図り、出荷計画表や市場との連携により西表かぼちゃのブランド化に取り組んだ。
- その結果、平均単収の向上、作付面積、収量の拡大が図られ、沖縄県の拠点産地の認定が得られ、市場から高い評価が得られるようになった。

具体的な成果

普及指導員の活動

- 1 かぼちゃ生産の増加
- 栽培技術向上により単収が増え、作付面積、出荷量が増加した。(H23→H29)
  - 単収 798kg→1000kg
  - 作付面積 6.8ha→10ha
  - 収量 54t →100t
  - 悪天候下でも減収率が少ない(平成28年単収)
  - 石垣島 266kg
  - 西表島 618kg

- 平成23年～26年
- 技術向上のため土づくりと栽培講習会実施。拠点産地認定へ向け、概要とそのメリットを生産部会員へ周知。取組方針と計画の共有を図ると共に部会員の結束を固める。

- 2 出荷調整作業の軽減
- 玉磨き機の導入により作業時間が軽減した。(導入前→導入後)
  - 一玉当たり作業時間
  - 13.1-14.8秒 → 5.2-6.3秒

- 平成24～25年
- 作付け調査を実施、精度の高い出荷計画の作成、市場への産地情報発信を行い、市場担当者やバイヤーへの販売環境の強化を行った。

- 3 拠点産地に認定
- 沖縄県拠点産地に認定され、施策の支援が可能となり、産地の責任者として農家の意識が向上した。

- 平成26年
- 作業軽減のため玉磨き機導入した。



- 平成27年～28年
- 悪天候下の生産安定のため、かん水制限、病害対策を実施した。

普及指導員だからできたこと

- 4 西表かぼちゃブランドの進展
- 独自の出荷箱を導入し、安定出荷、高品質、緻密な出荷計画で市場から高い評価を受けるようになった。

- JA、行政、市場と密に連携を取り、また、それ以上に農家と連携を取り、現場の課題を敏感に吸い上げ対策する事で、課題解決につながった。

## 西表島産かぼちゃブランド化への取り組み

活動期間：平成23年4月～平成29年3月

### 1. 取組の背景

離島地域である西表地区のかぼちゃ生産は、資材費・輸送賃等のコストがかかるため、収量・品質の向上による収益性向上が産地発展に不可欠である。一方、常駐の指導員がおらず、歴史の浅い産地のため農家間に技術格差があり、「大玉」「完熟」に欠かせない堆肥等の土づくり資材が手に入れにくい問題がある。普及では関係機関と連携し、土づくりを中心とした技術レベルの高位平準化と産地のブランド化に取り組んだ。

### 2. 活動内容（詳細）

■栽培技術講習会を中心に、2週間毎に現地検討会を開催し技術の底上げを図った。現地検討会では指導者からの一方的な指導のみでなく、優良農家を中心としてお互いで意見を出し合える工夫をし、常駐指導員が不在の中でも技術向上が図れる体制に導いた。



栽培講習会



現地検討会

■優良農家の栽培事例調査、経営事例調査を実施し、技術改善、経営改善を促した。

共通	優良事例調査	元肥	活着促進
農家A	クロタリア:5kg(5-6月) 市販堆肥+牛糞>800kg (定植幅・定植10日前)	鶏糞:360kg BB500:50kg N:P:K=21:26:16	りん安灌注3-4回 (定植後2日未済)
農家B	緑肥なし 市販堆肥:1000kg (定植幅・10月下旬)	鶏糞:750kg Mコート562:24kg N:P:K=29:33:25	りん安灌注2回 (定植時+5日後)
農家C	クロタリア:5kg(5月) 市販堆肥:1000kg (定植幅・定植14日前)	鶏糞:405kg BB500:50kg N:P:K=23:28:18	なし
農家D	クロタリア:3kg(5-6月) 市販堆肥:500kg ケーキ:900kg (定植幅・9月)	鶏糞:450kg Mコート562:30kg BB500:50kg N:P:K=24:28:20	りん安灌注2回 (定植時+5日後)
県栽培指針	堆肥:2500kg	N:P:K=24:28:20	りん安灌注2回

図1 優良事例調査

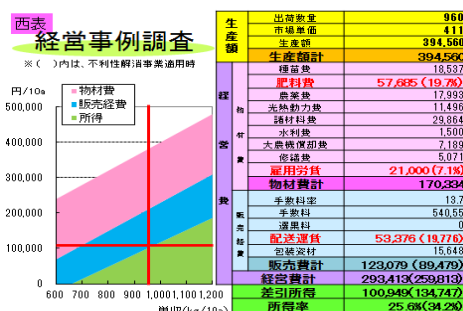


図2 経営事例調査

■全戸において土壌分析を行い、分析に基づいた土壌改良指導を実施するとともに行政と連携し、土づくり資材への助成支援、代替資材となる緑肥の普及を図った。

○堆肥に対する助成：竹富町単独事業（平成 24 年度）

■出荷調整作業は農家自ら協同で行っており、作業時間軽減と外観品質の向上のため、玉磨き機を導入した。

○沖縄県農業生産・経営対策事業（平成 26 年度）



玉磨き作業の様子

■農家ごとに生産実績を配布し、個々の技術レベルの認識に努めた。

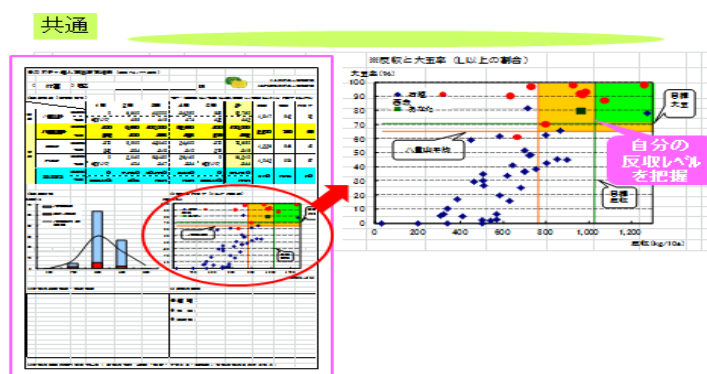


図3 かぼちゃ通信簿

■的確な出荷情報を市場に提供するため、個々の作付け、受粉日から出荷計画表を作成した。また市場担当者やバイヤーとの意見交換を定期的に行い、市場との連携、農家の意識向上に努めた。



出荷計画ボード

新規バイヤー視察

産地懇談会

### 3. 具体的な成果（詳細）

- 全農家が土壌分析を受検するとともに、緑肥栽培を導入するなど土づくり意識が向上した。
- 年々単収が向上するとともに、平成 28 年に天候不良で他地区が減収した年でも、安定的に収量を確保できるなど、栽培技術の向上が図られた。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
石垣島	481	467	618	710	703	266	720
西表島	798	739	904	918	1,097	619	1,000

単位:kg/10a

- 高品質、安定出荷が図られるようになり、市場からは高い評価を受けるようになった。
- 玉磨き機の導入により、これまで一玉当たり 13.1～14.8 秒かかっていた玉磨き作業が 5.2～6.3 秒と 52～65%短縮された。また、これにより外観が良くなり品質が向上した。
- 生産意欲の向上により作付面積増加した。また、これまでの取り組みが認められたことで平成 26 年には沖縄県の拠点産地に認定された。沖縄県ブランド化貢献部門で野菜産地活動表彰を受賞した。

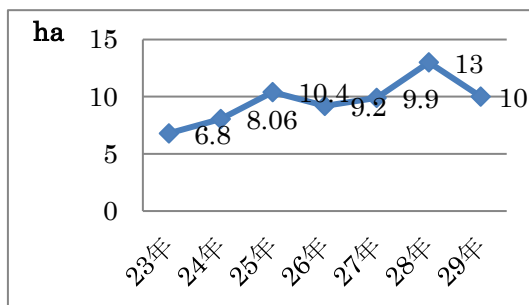


図4 作付面積の推移



拠点産地認定証交付式の様子

### 4. 農家等からの評価・コメント

(西表島かぼちゃ生産部会)

生産農家と密接に連携して、要請にも丁寧に対応してもらった。また熱心に西表かぼちゃの振興に取り組んでもらい、産地化を進めることができた。



## 5. 普及指導員のコメント

〔 沖縄県八重山農林水産振興センター農業改良普及課 我那覇あんり  
沖縄県病害虫防除技術センター八重山駐在 山口綾子 〕

生産者が収量・品質向上意欲が高く、他産地に負けない西表産かぼちゃブランドという高い目標を持ち、部会が団結して取り組んだ。JA、竹富町、農業改良普及課の連携が密にとれ、農家とともに同じ目標に向かって取り組んだため、離島の離島というハンデを抱えながら、産地化を進めることができたと考えられる。

## 6. 現状・今後の展開等

引き続き、土づくり、講習会など技術支援の継続と、出荷体制整備・出荷計画の精度向上及び販売担当との連携強化に努め、「西表島産カボチャ」の販売促進・定着を目標とする。また、地域と連携し近隣農業者、若手農業者の誘導と定着支援を行うことで新規農家の確保、雇用の確保に努めるとともに。石垣地区の生産者との交流を薦めることで八重山地区全体の生産力向上を図る。